

令和6年3月吉日
船橋希望学舎
世田谷区立船橋希望中学校
校長 菅野 茂男

令和5年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

1 学習指導について

前年度の改善点の指摘を受け「世田谷探求的な学び」を基本とする多様な学びを共有しその個性と能力を発揮できるように学習改善を進めた。「課題について自分で言ったり、友達と考えたりする時間がある」という意識をしている生徒が92%いることは探求的な学びを今年度意識して授業に臨んでいる教員と生徒の姿勢を表した数値である。またここ3年間にわたり「ICTを利用し分かりやすい授業をしている」と感じている生徒が90%を超えていることが、コロナ禍でスクールギガ構想を前倒しで実施したことが探求的な学びを加速させることに寄与していることの裏付けである。

2 豊かな人間関係づくりと進路指導（キャリア教育）

豊かな人間関係の育成に欠かせない地域とのつながりは、感染症の法的扱いが変わったことで停滞していた活動が復活し始めた。これは元々地域との関わりが深い本校の教育活動の回復への兆しであり保護者や地域から「地域との連携」について前向きである評価が60~70%あることにも表れている。一昨年から復活した職場体験や職業講話を通して、自己肯定感や自己有用感の向上がさらに図られたことも世田谷区のキャリアデザイン教育の基礎を築く上に大切な点である。

ただ「キャリアパスポートに書いた目標を考え行動する」「進路、将来について考える授業がある」「進路や将来の仕事に関する情報提供がある」に肯定的な評価が若干下降気味であることを今後の課題としたい。特に1年生に「わからない」が多いのは学習の意義を十分に伝えきれなかったことも起因していると思われる。

3 特色ある教育活動および生活指導について

- (1) 7年目のNIEについて、過去の数値の伸びがなかなか向上しないとの指摘を受け、NIE日直や各教科、キャリア学習などで新聞を使い興味や自分の考えをもつ効果を検証した。「新聞に興味をもち自分の考えをもつようになった」は昨年度よりも10%ほど低い数値ではあるが、月1回の土曜NIEタイムでの生徒の様子を観察する限りでは新聞に興味をもっていることは事実である。「わからない」が過去3年間で最も多いという結果から『新聞に興味はもっているが自分の考えをもつようになった』とまでは言えない、と読み解くことができるのではないかと。
- (2) 「ルールを守る」「ルールを考えさせる」「ルールについて理解できる」は3年間を通して90%を超え本校の特色である規律正しさが保たれることにつながっている。また「日頃からあいさつを心がけている」は約90%と生徒自身での評価も高く、校内のあいさつだけでなく学舎で取り組む「あいさつ運動」とともに、船橋希望中生としてあいさつについては自信を持っており、卒業後のキャリア教育の一環としての価値付けにも寄与している。